

慶應義塾維持会



Newsletter

2020年12月

No.13

奨学生から、感謝を込めて。

contents

岩沙弘道維持会会長からの挨拶

維持会奨学生からの
感謝のメッセージ

維持会員からの
メッセージ

奨学生採用実績



2019 年度 慶應義塾維持会 収支決算

2020 年度の維持会事業についてのお知らせ

奨学生から、感謝を込めて。

慶應義塾維持会をご支援いただきまして心より感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、2020年度は誠に残念ながら「慶應義塾維持会懇話会」の開催は、中止といたしました。

本会報誌を通じまして、2020年度の維持会奨学生として採用された塾生から、感謝の気持ちをお届けいたします。

岩沙弘道維持会会長からの挨拶

日頃から維持会の活動にご理解・ご支援をいただき心から御礼申し上げます。

今年度の維持会は、中核事業である維持会奨学金に加え、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による家計急変、あるいはアルバイト収入の減少などによって経済状況が悪化し修学が困難になった塾生に対する緊急学生支援にもご寄付を充当させていただくこととしております。また、例年夏に開催しております維持会奨学生との懇話会は、残念ながら今年度は中止となりました。来年は従来どおり開催できることを楽しみにしております。

福澤先生ご逝去の直後に社中によって設立されました維持会は、これまでも困難な局面で義塾の存続と発展を財政面から支えてまいりました。引き続き、皆さまからのあたたかいご支援を賜りますようお願い申し上げます。



<奨学生の皆さんへ>

毎年皆さんと直接お会いし、賑やかに話せる懇話会をとても楽しみにしておりましたので、今年度は非常に残念に思っています。

奨学生の皆さんにおいては、維持会奨学金という形で支えてくださっている多くの塾員の方々や、健康と安全を第一に様々な工夫や対策を講じながら皆さんをサポートしている教職員に感謝し、さらに一生懸命学業に励んでいただきたいと思います。志と気概を持って有意義な塾生生活を送り、それぞれが未来の先導者となっていただくことを義塾社中一丸となって期待しています。

皆さんも義塾社中の一員として、一緒に力を合わせてこの危機を乗り越えていきましょう。

維持会奨学生からの感謝のメッセージ

(掲載内容は一部編集、抜粋しております。)

2020年度

慶應義塾に受け継がれてきた書物を深く知り、次の世代に伝えていきたい

私は今、文学部で書物の歴史や文化について学んでいます。1年生の時に三田キャンパスの図書館で展示されていた「グーテンベルク 42 行聖書」と出会い、この分野に進もうと決めました。図書館に所蔵されている様々な貴重書や附属研究所である斯道文庫の古典籍は慶應義塾の宝であり、私の憧れです。そのような書物に実際に触れるに値する人物になれるように、書物に関する知識の向上に日々努めています。毎日の授業や課題に全力を注ぐだけでなく、大学が主催する展示会やシンポジウムにも積極的に足を運ぶよう心掛けてきました。会場で先生方と直接お話をさせていただく機会にも多く恵まれました。その度に、慶應義塾で教鞭を執られている先生方が現在に至るまでどれほど熱心に研究してこられたかを実感しました。今年はオンラインでの開催が殆どでなかなか現地に足を運べないのですが、メールで質問するといつも丁寧にお答えくださり、頭の下がる思いです。先生方が私にしてくださったように、私も慶應義塾に受け継がれてきた書物を深く知り、次の世代に伝えていきたいと強く願っています。

私は慶應義塾に入学して2年目になりますが、この場所で学べることを誇らしく思っています。塾生として、また奨学生として相応しい人物になるべく、いただいた奨学金を大切にに使わせていただきます。この度は慶應義塾維持会の奨学生として採用していただき、本当にありがとうございました。

福岡県出身 文学部2年

環境問題など、国境をまたがる社会問題の解決に携わりたい

維持会奨学金は、卒業生を中心とする社会人の方からの寄付で成り立っています。つまり私は、社会人の方が働いて得たお金の一部を、奨学金としていただくことになります。このことを考えると、支えていただく方の期待を裏切らない学生生活を送らねばならないと感じ、身が引き締まる思いです。限りある学生生活において、私は二つのことに力を入れています。

一つ目は学業です。私は将来環境問題など、国境をまたがる社会問題の解決に携わりたいです。このような問題に対し、国や企業の枠組みを超えて向き合うためには国際機関で働くことが良いのではないかと考えています。このような機関では特定分野での高い専門性が求められます。そこで、私は経済学、特に環境経済学の分野で高い専門性を持つことを目指し経済学部で学んでいます。進路はまだ具体化できていませんが、大学院に進む場合には、入学するため、また奨学生として採用されるために、学部でよい成績を収める必要があります。特に数学や経済学の基礎科目に力を入れ、学部での勉強をこれからも頑張りたいと思います。

二つ目は課外活動です。サークルで英語ディベートをしています。大会を目標にチームメイトや先輩、同期と協力しスピーチを磨いていくことはとても楽しいです。また、ディベートで必要とされる英語力や幅広い社会への理解は、将来に役立つものだということもモチベーションの一つになっています。ディベートの他にも複数の正課外の活動に参加しています。学部での勉強を優先して考えつつ、これからも興味を持った活動に積極的にかかわり、人としての幅を広げていきたいです。

これからも支えていただいている方々への感謝を忘れず、毎日を大切に過ごしたいと思います。

福井県出身 経済学部1年

維持会奨学生からの感謝のメッセージ

(掲載内容は一部編集、抜粋しております。)

2020年度

奨学生からの感謝のメッセージは、基金室 Web サイトにも掲載しています。



政治や法律の面から世界の問題を解決し、社会に貢献できる人材になりたい

私は、小学生の頃にアフリカで生活した経験があり、社会問題を解決し、世の中の苦しんでいる人々を助けたいという思いから慶應義塾大学法学部政治学科を志しました。特に、スラムを訪れたり、ショッピングモールのテロ事件を経験したりして、貧困問題やテロ行為に対して問題意識を持っています。将来的には国際 NPO 団体や国連などの組織で働きたいと考えており、入学時には大学での講義を中心としながらも、外国語の勉強やボランティア活動など、様々な経験を積みみたいと思い、希望に胸を膨らませていました。また、このように積極的に勉学に励み、課外活動を行うためには、勉学と課外活動、アルバイトのバランスを取りたいと考えていましたが、コロナの影響で春学期は地元で暮らし、将来と家計への影響に不安を抱えながらの大学生活のスタートとなってしまいました。秋学期からは上京したのですが、まだアルバイトを始めることができていないので、そんな中でこの度奨学金をいただくことができ、心から感謝し、かつ少し安心したところです。

本年度はなかなか思い通りの学生生活を送れませんでした。来年以降は海外インターンを通して社会問題の解決を図る AIESEC という団体での活動に本格的に取り組み、国際法、国際政治、外国語等の勉強に力を入れていきたいと考えています。そして、政治や法律の面から世界の問題を解決し、社会に貢献できる人材になれるよう、日々邁進していきます。

この度は本当にありがとうございました。

熊本県出身 法学部 1 年

学んだことを来年以降、思う存分発揮し、医師として勤務したい

私は医学部の 6 年生であり、来年から医師として勤務を行うため、医療従事者の皆様の現状を思うと、自分も早く何か貢献したいという気持ちでいっぱいになります。ただ、技術や知識が未熟な状態で医療現場に出れば、逆に迷惑をかけることは避けられません。そのため今年度はより一層現場での勉強を重視したかったのですが、COVID-19 の影響で予定されていたカリキュラムの半分程度は中止となりました。残りの半分も以前よりは、かなり縮小した形で行われたため、正直な所、十分な勉強は出来なかったと感じております。ただこのような状況によりオンラインが発達してきたため、これまでは参加できなかった勉強会に遠隔での参加が可能となりました。私は今年度様々な勉強会に参加し、全国津々浦々の病院の現状や COVID-19 に対する理解を深めることができました。ここで学んだことを来年以降、思う存分発揮していきたいと思っています。

ただ、来年から医師として勤務するためには、今年度末の医師国家試験に合格しなければなりません。大学のカリキュラムは全て終了したため現在は国家試験の勉強に力を入れているのですが、まだアルバイトも継続しております。今回の採用により、今後はより一層国家試験の勉強に専念できることになりました。国家試験に落ちてしまえばこれまでの努力が水の泡となり、様々な関係者の方にご迷惑をお掛けしてしまうため、維持会の皆様には感謝してもしきれません。必ず国家試験に合格することで、来年以降恩返しをさせていただきたいと思っています。

奨学生として採用していただいたことに重ねて感謝を申し上げますとともに、維持会の皆様のご多幸を心よりお祈り致します。

鹿児島県出身 医学部 6 年

福澤先生を見習い、世界中の子供たちが皆教育を受けられる世を目指したい

私は中学と高校の 6 年間で、フェアトレードの活動を行っていました。そこでマリヤブルキナファソでは、児童労働により学校に通えない子ども達がいるのだと知り、自分にできることはないかと模索してきました。慶應義塾大学の創設者である福澤諭吉先生は、学問というものは、意欲のあるものに広く門戸が開かれているべきだと行動を起こしてきた方です。私自身、その筋の通った価値観や生き方に大変感銘を受けていて、この大学で学べることに少なからぬ縁を感じています。私も福澤先生を見習い、世界中の子供たちが皆教育を受けられる世を目指したいと考えています。特に、技術者として途上国のインフラを整え、教育機関の充実に携わることによって貢献したいです。

この一年、新型コロナウイルスの影響で今までのような学生生活は送れず、自分自身が大変だと感じることも多かったのですが、沢山の方々のお陰でこのように勉学に励むことができています。元々興味があった物理は勿論、様々な教科で新しい知識を得たり、現象の説明が明らかになっていったりすることに喜びを感じています。また、将来の為にフランス語を積極的に学んでいます。そして、このような情勢だからこそ自分の外側に目を向けて思いやる大切さに気付きました。これからの学生生活では、この慶應義塾大学で学問を追求できる環境に感謝しながら、教養と技術を身に付けていく所存です。今後、広い教養とともに高い人格を備えて、世界で苦しむ人に寄り添って社会に貢献していきたいです。最後に、慶應義塾維持会の皆様のご尽力に感謝いたします。採用して下さり本当に有難うございました。

愛知県出身 理工学部 1 年

日韓関係改善への政策提言を卒業論文という形で行い、学びの集大成としたい

私は高校時代に日韓関係の悪化により韓国への交換留学を断られた経験から、日韓関係改善へとつながる革新的な策の研究を行ってきました。関係改善と一概に言っても様々なアプローチがあり、韓国社会、文化、歴史、日本外交、在日外国人、言語教育等様々なジャンルの授業を履修、さらには 2 年次から現在まで継続して研究会に所属し、関係改善策を模索してきました。昨年は高校時代果たすことのできなかった、私の夢の一つである韓国への交換留学に参加することができたものの、コロナの影響で実際に現地生活を送ることができたのは予定期間の半分である 4 ヶ月間のみとなってしまいました。しかし様々なジャンルに及ぶ大学での学びや、専門的な研究に加え、実際に韓国の大学の講義受講、さらに現地での生活を経験した私だからこそできる、日韓関係改善への政策提言を卒業論文という形で行い、学びの集大成としたいと考えています。

また、奨学金をいただくことで、義塾で学ぶことができています。私の地元、長野県には経済事情を理由に私立大学への進学を諦めてしまう学生も少なくはないため、私のように奨学金をいただくことで、通学できる可能性もあるということを知ってもらい、彼らの選択肢を増やすと同時に、義塾にとっても素晴らしい学生が一人でも多く入学することになれば良いと考えます。

今回奨学生として選んでいただいたことにより、金銭面の負担を考えず勉学、研究に集中し、取り組むことができることに、感謝の気持ちを忘れず真摯に取り組んでいきたいと思っています。末尾になりますが、慶應義塾維持会の皆様のご健康とますますのご発展を心よりお祈り申し上げます。

長野県出身 総合政策学部 4 年

維持会奨学生からの感謝のメッセージ

(掲載内容は一部編集、抜粋しております。)

2020年度

途上国で助産師育成プロジェクトに携わりたい

現在、私は看護医療学部在籍しており、将来は助産師になることを志しています。開発途上国では若くして母親になるため夢を諦めざるを得ない女性が多く、出産時における母子の死亡率も高い現状があります。このことから、将来は途上国で助産師育成プロジェクトに携わりたいと考えています。リプロダクティブヘルス・ライツの普及を進め、出産時の妊産婦死亡率をゼロにする活動や望まない妊娠をするリスクを減らす活動、そして若くして母親になった女性の教育支援を行うことで出産が原因で夢を諦めないといけいない現状を無くしたいと考えています。

まずは、自分にできることはないかと考え、大学入学後は子どもの権利を推進し、貧困や差別のない社会の実現を目指す国際NGOのユースメンバーとして若者に身近なジェンダー課題の啓発活動に尽力してきました。また、ガーナ共和国のクリニックでインターンシップを通して経済的に貧しく医療を受けることが困難な患者や、パレスチナでの移動診療活動を通して政治的な要因により医療へのアクセスが困難な人々と出会いました。これらの経験から、どのような環境に生まれても誰もが必要な医療を受ける権利があると私は考えています。そのため、生まれた環境が違ふことにより生じる医療格差を縮めることのできる助産師になれるように義塾でより一層勉学に励みます。そして、福澤先生のように社会の先駆者として人材を育成することでより多くの命を助け、義塾の発展に貢献していきたいと考えています。最後になりましたが、この度は奨学金のご支援を頂きまして、誠に感謝申し上げます。

大阪府出身 看護医療学部2年

患者さんにより安全な医薬品を届けたい

9月から開始した卒業研究と平行して来年3月からは実務実習が始まります。自身の関心のある分野について心置き無く学べるのは慶應義塾維持会の皆様からの温かいご支援があったことだということ肝に銘じ、少しでも多くの知識と経験が得られるよう精一杯取り組んで参りたいです。

現在、卒業研究では市販後の医薬品の安全性に関する規制の実態について調査を検討しております。医薬品は発売前の開発段階で患者さんおよび健康な方を対象として品質、有効性、そして安全性について綿密な計画のもと試験を実施し、厳格な審査を通過したもののみが市場に供給されます。しかし、それらの試験では安全性の評価が十分ではなく、市販後も継続して安全性監視活動を実施していかなければなりません。具体的には、患者さん自身や医療従事者、あるいは製薬企業が患者さんに生じた副作用などを規制当局に報告することで副作用に関する情報を収集しています。一方で、それらの報告が多忙な医療従事者の負担になっていたりと、もしくは患者さんが副作用と思われる症状を医療従事者に伝えない、あるいは副作用自体に気づかないために報告されなかったりと、改善すべき点が多くあります。研究を通じてこれらの課題を明確にし、患者さんにより安全な医薬品を届けるためには今後どのような取り組みが必要であるのか考えていく所存です。

末筆ではございますが、重ねて御礼を申し上げますとともに、貴会のさらなるご発展を心よりお祈り申し上げます。

本当にありがとうございました。

茨城県出身 薬学部4年

維持会員からのメッセージ

維持会終身会員の方からメッセージをいただきました。

塾員 1985年商学部・2015年文学部（通信教育課程）卒業

Q 維持会にご支援をいただいた理由やきっかけを教えてください。

A 1985年に慶應義塾大学商学部を、30年後の2015年に文学部を通信教育課程で二度目の卒業をしました。仕事も面白かった時期ですがやや飽き足りない面もあり、時間はかかりましたが、関心のあることに自分なりに取り組みました。今まで私は三田会や維持会との関わりはありませんでしたが、社会へ出て約35年たち、いろいろと振り返る機会もある中で今後の自分について考え、自分として節目の時期に何かできればと思い、維持会に寄付しました。色々な寄付がある中で、維持会にしようと思ったのは、もっともジェネラルで、広く大学の役に立つと考えたからです。

Q 維持会奨学生への思いをお聞かせください。

A 奨学生であれば目的があって奨学金を得たであろうからなのことですが、そうでは無い場合でも自分と同様に、慶應で学んだ方には、良い学生生活を送り、元気に社会に旅立ってほしいと思います。私自身も慶應で学べて嬉しかったですし、振り返ると良い4年間であったと思いますので、ぜひ若い人たちにもそうあってほしいと思います。

Q 慶應義塾へのメッセージをお願いいたします。

A 今年の春から勤務先で人事を担当することになりましたが、当社を受けていただいた塾生さんたちはとても良い若者だと思いました。良い意味で自尊心を持っていて、人それぞれカラーがあるように感じます。今後も良い若者を輩出してほしいと思います。



奨学生採用実績

維持会奨学金

経済的理由により修学が困難な塾生を援助するため、2007年に創設しました。全国の優秀な学生に義塾で学んでもらうために地方出身者を優先採用しています。毎年、厳正な審査の下、人物、学業・成績ともに優れ、愛塾精神に富んだ塾生が採用されています。

※「維持会奨学金」は給付型で返済の必要はありません。

2020年度

文・経済・法・商・総合政策・環境情報学部 から	80名・各50万円
医・理工・看護医療・薬学部 から	55名・各80万円

維持会員の皆様が
奨学生を支えて
くださっています

維持会員
45,271名
2020年11月30日現在

終身会員
8,409
普通会員
36,862



海外
22人

福岡 36人
佐賀 9人
長崎 9人
熊本 28人
宮崎 9人

鹿児島
29人

山口 18人
大分 7人

愛媛 15人
高知 16人
徳島 6人

滋賀 4人
京都 15人

島根 13人
広島 35人
岡山 23人
兵庫 49人

大阪 53人
奈良 28人
三重 20人

和歌山 9人

福井 13人

石川 9人
富山 25人

岐阜 25人

新潟 34人

長野 34人

山梨 16人

群馬 36人

栃木 34人

茨城 56人

千葉 25人

福島 24人

山形 5人

宮城 21人

秋田 7人

岩手 8人

北海道 58人

東北 82人

関東 362人

中部 265人

近畿 178人

中国 97人

四国 46人

九州・沖縄 159人

海外 22人

全国の優秀な塾生が
採用されています

2007年度～2020年度まで
1,269名採用

2019年度 慶應義塾維持会 収支決算

(単位：円)

収入の部	
寄付金	135,144,700
維持会基金運用収入	82,949,221
(1) 収入の部合計	218,093,921

支出の部		
維持会事業費	奨学支援事業	81,150,000
	その他の財政支援事業	1,549,221
管理経費	会員用三田評論諸経費	15,711,543
	事務経費	11,610,905
(2) 支出の部合計		110,021,669

収支差額 (1) - (2)	108,072,252
(3) 年度末維持会基金残高	4,255,533,328

(2020.3.31 付)

(1) 収入の部

新規入会298件、継続5,678件、計5,976件の寄付金と維持会基金運用収入により218,093,921円となりました。

(2) 支出の部

奨学支援事業：「慶應義塾維持会奨学金」に81,150,000円を充当しました。

その他の財政支援事業：キャンパス施設整備資金として1,549,221円を助成しました。

管理経費：会員への『三田評論』発送郵便料等、維持会勧誘に伴う趣意書等作成費・DM発送郵便料等27,322,448円を支出しました。

(3) 維持会基金残高

収支差額108,072,252円を全額維持会基金に組み入れた結果、基金残高は4,255,533,328円となりました。

昨今の経済状況において運用益が減少する場合でも、維持会事業が遂行できるよう財政基盤を強化します。

2020年度の維持会事業についてお知らせいたします。



■キャンパス施設整備資金 1,110,666円

塾生の教育・課外活動等における環境を一層充実させるための施設整備を計画しています。維持会からこの資金を助成します。

◀ 2019年度実績 ▶ 1,549,221円 大学キャンパス(三田)第1校舎教室机・椅子の購入費を助成しました。

■奨学支援事業「維持会奨学金」 84,000,000円

238名の応募があり、計135名の塾生に支給することが決定しました。

◀ 2019年度実績 ▶ 81,150,000円 343名の応募があり、計131名の塾生に支給しました。

■新型コロナウイルス感染症拡大にともなう緊急学生支援

新型コロナウイルス感染症拡大の影響による家計急変、あるいはアルバイト収入の減少などによって経済状況が悪化し、修学が困難になった塾生に対する緊急経済支援をおこなっております。

本事業には皆様より賜りますご寄付を充当させていただいております。



基金室 WEB サイトにも奨学生からの
感謝のメッセージを多数掲載しています。
ぜひご覧ください。

慶應義塾維持会とは

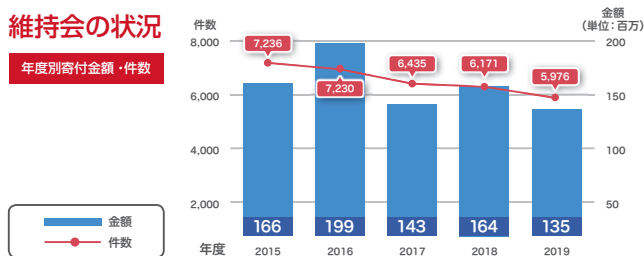
1901（明治34）年2月3日、福澤諭吉の逝去に伴い、義塾中人々々は義塾の運営に資するための方策を真剣に討議しました。その結果生まれたのが「慶應義塾維持会」です。慶應義塾は「義塾（パブリック・スクール）」の名が示すとおり、社中の協力と共同責任において維持・運営されるものであり、維持会の組織化はそうした義塾の理念を具体化したものといえます。

現在、維持会員数は約45,000名を超え、会員の皆様からのご厚志による維持会基金は、2017年度末には約40億円を超えております。2007年度にはこの基金の運用益を充てて「慶應義塾維持会奨学金」を創設、愛読心に富んだ優秀な塾生の経済的負担を軽減し充実した学生生活を送れるよう支援しています。また、義塾の教育・研究の振興、施設の拡充などに幅広く寄与しています。



維持会の状況

年度別寄付金額・件数



加入特典

『三田評論』の贈呈

義塾の機関誌『三田評論』を芳名掲載号（ご入金から約2～3ヵ月後）からご加入期間、贈呈します。
（参考：通常年間定期購読料4,700円）

記念品の贈呈

新規で終身会員にお申し込みくださった方（既に普通会员の方が終身会員にお申し込みの場合も含みます）には、

維持会オリジナル記念品を贈呈します。

本革トレイ（日本製・ペンマーク入り）
（贈呈するトレイの色は写真と異なります。）

【三田評論】

慶應義塾の機関誌。明治31（1898）年創刊。

時々の話題をわかりやすく解説した特集、講演録、随想、活躍中の塾員紹介、義塾の近況等が満載されています。小型総合雑誌としての充実ぶりは、各方面から高い評価が寄せられています。



慶應義塾維持会

Newsletter No.13

〒108-8345 東京都港区三田2-15-45

TEL.03-5427-1545(平日9:00～17:00) FAX.03-5427-1546

E-mail:kikin-box@adst.keio.ac.jp <https://kikin.keio.ac.jp/ijikai/>



発行日 2020年12月25日

発行 慶應義塾基金室 維持会担当